

第5回蒲郡市地域バス協議会 議事録

- 1 日時：平成27年12月15日（火）午後2時15分～15時30分
- 2 場所：蒲郡市役所 本館2階 201会議室
- 3 出席者 委員 愛知工科大学自動車短期大学自動車工業学科教授 橋本孝明
委員 名鉄バス東部株式会社 加藤直樹
委員 大塚地区総代会長 竹内政憲
委員 三谷地区総代会長 池田知之
委員 蒲郡町部地区総代会長 本多英夫
委員 蒲郡東西北部地区総代会長 大場克海
委員 塩津地区総代会長 成瀬正明
委員 形原地区総代会長 天野忠則
委員 西浦地区総代会長 鈴木勝利
委員 蒲郡市身体障害者福祉協会 金沢孝一
委員 蒲郡市老人クラブ連合会 市川紀子
委員 蒲郡市社会福祉協議会 金原久雄（欠席）
委員 蒲郡市小中学校PTA連絡協議会 坂部三智（欠席）
委員 蒲郡市総務部長 壁谷勇司
事務局 蒲郡市交通防犯課長 藤川弘行
蒲郡市交通防犯課長補佐 竹下暁
蒲郡市交通防犯課主事 足立昌平
- 4 議題
 - (1) あいさつ
 - (2) 委員自己紹介及び役員の選出
- 5 協議事項
 - (1) ラグーナ線の取り扱いについて
- 6 報告事項
 - (1) 平成27年度路線バス乗車実績等について
 - (2) 形原地区支線バス利用状況について
- 7 その他
 - (1) バス路線図（沿線施設案内付き）について
- 8 議事内容
 - (1) 開会
 - ・ 出席委員が12名であり、定足数に達しているため、蒲郡市地域バス協議会設置要領第5条3項の規定により会議が成立することが事務局より報告された。
 - (2) 議題
 - ア あいさつ
 - ・ 交通防犯課長より、今年度初めて、通算第5回目の蒲郡市地域バス協議会

であること。昨年度、この協議会で協議を重ね、事業者のご協力もいただき、今年度4月より、一部路線、ダイヤを変更して路線バスが運行される結果となった。周知等には、時間がかかるということだが、結果を確認し、評価等を行っていきたいと考えている。

- ・ 7月26日に市民会館で開催された蒲郡まつりで路線バスの体験イベントを開催した。また、バスを使った交通安全教室、乗り方教室などを事業者にご協力いただきながら実施し、周知に努めている。今回紹介させていただく施設案内付きの路線図の作成も進めていただいております、今後とも協力して周知、利用促進に努めてまいりたいと考えている。それぞれの立場から忌憚のないご意見を頂戴したいとの挨拶があった。

イ 自己紹介及び役員を選出

- ・ 委員自己紹介
- ・ 蒲郡市地域バス協議会設置要領第4条2項により、会長、副会長が委員の互選によって選定された。
- ・ 議長より本日の議事録署名人として2名の委員が指名された。

(3) 協議事項

ア ラグーナ線の取り扱いについて

- ・ 事務局より、資料1に基づいて説明が行われ、ラグーナ線について補助対象路線に含めることが全会一致で合意された。

〔質 疑〕

(委 員)

- ・ 委員の交代により初めて参加した。これまでの経過、協議内容が分からない。補助金の支援は、どのような金額で、具体的にどのような方法で決定されてきたのか説明がないので分からない。資料があればお願いしたい。

(事務局)

- ・ 補助金については、計算式がある。年に2日、バス事業者により乗降調査を行う。この調査により、路線バスの運行に対して1キロの路線による収益を算出する。また、路線1キロの運送経費を計算する。その差額の赤字額が決定する。
- ・ これにより、赤字路線の運行距離に対して補助金額を設定し、今年度は3,800万円を経常している。また、年度の実績値を出してもらい補助金額を決定する。

(委 員)

- ・ ここで補助路線について決定するならば、具体的な資料をもって説明すべき。細かな計算式を示してほしい。

(議 長)

- ・ この会議の上部組織として、蒲郡市地域公共交通会議という法定の組織がある。ここはその下部組織にあたる。これまでは、路線バスの見直しについて協議してきた。事業全体の予算関係については、これまで議論してきていない。

- ・ ここでは、既存の路線バスに対する要望事項を議論してきた。唯一の黒字路線であったラグーナ線が赤字になった。そのまま廃線というわけにはいかない。

(委員)

- ・ コストについての説明をお願いしたい。

(議長)

- ・ バスに対する金額は、先ほど事務局より報告があった。鉄道に対する支援についても、蒲郡市地域公共交通会議では報告されている。
- ・ ラグーナ線の扱いについて、皆さんからも意見を頂戴したい。

(委員)

- ・ 議長の説明については理解できる。
- ・ 反対する意味はない。ただし、例えば補助額が1,000万円だとか、1億円だったら反対しなければいけない。金額を加味して、住民の利便性を考えなければならない。
- ・ コストを認識した上で住民の利便性を確保するには、補助金での存続に賛成していく。
- ・ この地域バス協議会の上にも、会議があるのか。

(議長)

- ・ 蒲郡市地域公共交通会議がある。

(委員)

- ・ 上部組織があるなら、そちらで決めてもらえばいいのではないか。

(事務局)

- ・ 説明が不足しており申し訳ない。上部組織として、地域公共交通会議がある。その下部組織として、地域バス協議会、連携検討委員会、形原地区公共交通協議会の3つがある。
- ・ この地域バス協議会は、路線バスについて、総代会やPTAなど、利用者の立場のご意見を頂戴する会議で、また、事業者の交通事業者にも参加いただいて、議論をいただく場所。その協議結果を上部組織に報告、また協議して判断する。

(委員)

- ・ 地域公共交通会議には、総代連合会長が参加しているのか。参加されているなら、各総代が参加しなくてもよいのでは。

(事務局)

- ・ こちらの会議に、各総代に参加いただき、それぞれの地域の意見をお願いしたい。市の全域の意見を取りまとめて、上部組織へはかっている。地域公共交通会議には、総代連合会長に参加いただいている。

(議長)

- ・ 公共交通会議には、総代連合会長に参加いただいているが、地域の意見をきめ細かく確認し、路線バスについて、意見をもらうようにしたい。
- ・ 別表にある路線について3,800万円の予算措置がされており、新規のラグーナ線についても含める補助を進めたい。

(委員)

- ・ 会議の案内の「路線バスの現状等について」という議題だけでは、内容が分からず、個人的な意見になってしまう。地域の常会長等との事前協議ができない。

(事務局)

- ・ 補助金額について、平成26年度は3,500万円の予算に対して、2,966万2千円の実績。今年度は、3,800万円の予算を計上している。
- ・ 今後は、会議開催の事前案内に、協議資料を事前送付することで対応したい。

(委員)

- ・ 交通事業者への質問だが、中型バスの乗車人員、小型バスの乗車人員を教えて欲しい。また、小型バスを保有しているのか。
- ・ 補助金は、乗車率が問題だと思う。小型バスなら乗車率が上がるのではないか。

(委員)

- ・ 中型バスの乗車人員は、55人で立ち席も含む。座席数は、約30席。
- ・ 名鉄バス株式会社が所有している大型バスは、定員数70から77人で、小型バスは35人程度。マイクロバスはもっと小さい。
- ・ 蒲郡営業所は、中型バスを基本としている。資料2の3ページにある、西浦温泉前・病院循環線の1便当たりの利用者数が31人となっている。これは、平均値であり、朝夕のピークと昼間の5、6人の状況で大きな差がある。
- ・ 時間にあわせて車輛を用意することはできず、一番ピークの多い時間に器を用意する。そのため、最低限の器として中型バスを用意している。小型バスは、競艇場の運行を受託しているが、そのマイクロバスだけ。朝のラッシュに合わせざるを得ない。乗車効率を良くする為に小さい車両にすればよいが、朝のピークは利用者を運べない。
- ・ また、乗務員の人件費は、車両の大小ではかわらない。事業費の7割を人件費が占めており、車両の大きさで人件費がかわらないため、こうした状況になっていることを理解いただきたい。

(委員)

- ・ 補助対象にしていくことについて、減便のまま補助を続けるのか。

(事務局)

- ・ 4月から減便して運行されている。今年と来年度の2年間は、減便した状態でモニタリング、評価をしていきたい。今のままの便数を継続することを想定している。

(4) 報告事項

ア 平成27年度路線バス乗車実績等について

- ・ 事務局より資料2に基づいて報告が行われた。

〔質 疑〕

(委 員)

- ・ 国の補助金に対するルールにしたがって、乗降調査を5月に実施している。5月は、通勤通学の変動が落ち着いてくる、国としても調査を推奨する時期であるため、この時に調査を実施する。
- ・ 蒲郡ではイベントが多くあり、変動要素が多いため、年間を通じて一定ではない。
- ・ 平成26年度の増加は、豊橋の路線を廃止したことによる。平成27年度は、ラグーナ線の影響で大きく減少するだろう。
- ・ ラグーナ線は、4分の1に減便し、乗車率は5%に満たない。今の便数では利便性は悪いと思う。しかしながら、名鉄グループとして、蒲郡営業所が2年連続の赤字経営だと、営業所を閉鎖しないといけない状態で、補助を要請した。利用促進をしながら、利用を伸ばしていきたい。

イ 形原地区支線バス利用状況について

- ・ 事務局より資料3に基づいて報告が行われた。

〔質 疑〕

(委 員)

- ・ 交通安全協議会の活動を通して掛川市を視察した。掛川市は、路線バスを廃止して、乗合タクシーを運行している。他の方法もあることを勉強して欲しいということをお願いしたい。
- ・ 掛川市の事例では、空気を運んでいるとの高校生の意見から、廃止が議論された。

(事務局)

- ・ 形原地区の支線バスを導入する際に、予約制タクシーの議論を行った。今後も、先行事例を研究していきたい。
- ・ 既存の公共交通、赤い電車等については、廃止した後、再度元に戻すことはできない。既存の公共交通の維持確保していくことを交通計画で位置付けている。既存の公共交通の利用促進や改善を図りながら、維持していきたいと思う。

(5) その他

ア バス路線図（沿線施設案内付き）について

- ・ 事務局より資料4に基づいて説明が行われた。

〔質 疑〕

(委 員)

- ・ この路線図は、北海道の十勝バスの取組を参考にした。業界で有名になった取り組みを参考としている。
- ・ 昼間時間帯は、お年寄りが中心で、日々の買い物、通院の利用になる。歩いて行ける場所にある施設を紹介する。現在は、施設の確認をしているところ。3月末までに作成して、市の広報といっしょに配布できればと考えている。

(委員)

- ・ レイアウトの問題で難しいと思うが、写真の大きさを統一してもらいたい。

(委員)

- ・ できるだけバス停から施設のある同じ場所に配置するように気をつけている。ホームページから入手した写真もあり、商業施設のロゴも許諾を確認しているところである。

(委員)

- ・ 西側の方が充実しており、東側が少ない感じがする。

(委員)

- ・ 歩いていける範囲の施設を整理している。丸山住宅の周辺などは、施設が少ない。住宅の張り付き方で変わってくる。車での移動を前提として施設が作られている部分もある。歩ける範囲を前提としているので、ご理解いただきたい。

イ その他

(事務局)

- ・ 次回は必要に応じて開催させていただく。開催の際には、事前に連絡させていただく。

以上